

2025年度「授業についてのアンケート」（自由記述）

に対する学生への回答

英米言語文化学科

1. はじめに

授業評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。英米言語文化学科では、みなさんからの率直なご意見を真摯に受け止め、よりよい教育環境づくりに活かしてまいりました。2025年度も、授業の良かった点、改善してほしい点、学科や大学全体への要望など、前後期を通して数多くの貴重な声が寄せられました。以下に、特に学科と関係の深い項目を取り上げ、学科としての見解と今後の方針をお伝えします。すべてに即座にお応えできるわけではありませんが、一つひとつのご意見を学科会議で共有し、できるところから着実に改善を進めていきたいと考えています。

2. 寄せられたご意見への回答

① 授業運営・教員の指導姿勢に関するご意見

授業における教員の指導の仕方や言葉づかいについて、いくつかのご意見をいただきました。授業は、学生のみなさんが安心して発言し、失敗を恐れずに学べる場であるべきであり、とりわけ語学を学ぶ上ではこうした環境がきわめて重要であると考えています。いただいた声は学科内で共有し、教員一同で指導のあり方を改めて見直しているところです。気になることや困っていることがあれば、学科長やアカデミックアドバイザーなどにいつでもご相談ください。

一方で、教員の姿勢や授業の魅力について、励みとなるご意見も数多くお寄せいただきました。学生のみなさんからのお声は、教員にとって日々の授業を見直し、改善していく大きな原動力となります。良い実践を学科内で共有し、学科全体の授業の質をさらに高めてまいります。

また、授業アンケートの実施状況についてもご意見がありました。授業アンケートは、大学の決まりとして任意での実施となっています。ただし、お寄せいただいたご意見はいずれも学科内の教員で共有し、より多くの授業でアンケートが実施されるよう、今後も教員への奨励を続けてまいります。

② 授業内容・学習レベルへの要望

英語のアウトプットの機会をもっと増やしてほしい、より高いレベルで学びたい、というご意見をいただきました。具体的にどの授業を念頭においたご意見であるかは把握できませんが、英米では、上級者向けに設計された「チャレンジクラス」を持つ科目(Oral CommunicationⅢなど)や、3・4年次対象を中心としたアウトプット中心の科目

(Pronunciation Workshop, Discussion Skills, 通訳ワークショップ、観光英語など)を用意しております。しかしながら、こうした科目を実際に履修する学生は必ずしも多くないのが現状であり、学科としてはやや残念にも感じております。意欲のある学生のみならずには、こうした科目にぜひ積極的にチャレンジしていただきたいと思います。

また、英米言語文化学科では現在、カリキュラムの段階的な見直しを進めており、アウトプット型授業の拡充や、習熟度に応じた学びの設計についても継続的に検討しております。今後のカリキュラム設計にも、いただいたご意見を反映してまいります。

③ 履修登録・成績評価に関するご意見

教職課程の科目配置や、第二外国語科目の継続的な開講に関するご要望をいただきました。教職課程の科目配置は学部・大学全体の枠組みに関わるため、学科単独で即時に変更できる事項ではありませんが、いただいた声は関連部署とも共有してまいります。

成績評価の基準に関して、出席回数と単位認定の関係についてご質問がありました。出席基準は履修要項に記載された基準が原則ですが、授業ごとに評価方法(出席・課題・試験等の比重)が異なるため、各授業のシラバスで定められた条件もあわせてご確認ください。教員側にも、評価基準を学期初めに学生に対して明確に伝えるよう、改めて徹底してまいります。疑問が残る場合は、遠慮なく担当教員にお問い合わせください。

④ 学修環境・施設に関するご意見

教室設備(プロジェクター・モニター・スクリーン・空調・ネット環境など)、駐車場、雨天時の建物間移動、図書館の利用時間、自習スペース、厚生施設等に関するご意見も多数お寄せいただきました。これらは学科のみで対応できる事項ではありませんが、いずれも学生のみなさんの日々の学修環境に直結する重要な事柄であり、大学として真摯に受け止め、対応していくべきものと考えております。

3. おわりに

2025年度も、たくさんの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。学科だけで解決できることもあれば、大学全体の協力が必要なこと、時間をかけて取り組まなけれ

ばならないこともあります。しかし、みなさんの声は確かに届いており、教員一人ひとりが受け止めております。

英米言語文化学科は、これからもみなさんと共に、より良い学びの環境をつくっていきたいと考えています。私たち教員も、みなさんの学ぶ意欲に応えられるよう、これからも努力してまいります。

引き続き、建設的なご意見と真摯な学びの姿勢で学科を支えていただければ幸いです。